

2025 年度 次世代教育研究開発センターに係る助成金実績報告書【Ⅰ】

研究等実施代表者 職 名 / 氏 名	放送大学副学長 / 加藤和弘		
研 究 等 課 題 名	高等学校との連携における先取り学習の拡充可能性についての研究		
研究等実施代表者 及 び 分 担 者	氏 名	所 属 / 職 名	役 割 分 担
	加藤 和弘	放送大学副学長	責任者
	岩崎久美子	放送大学教養学部教授(心理と教育)	長生高校との連絡 調整、調査分析
	中谷多哉子	放送大学教養学部教授(情報)	調査実施、分析
	辰己 丈夫	放送大学教養学部教授(情報)	調査実施、分析
	五十嵐祐子	放送大学学園学務部連携教育課長	NHK学園高校にか かる事業の統括、 千葉県教育委員会 との連携の統括
	佐藤真由美	放送大学学園学務部連携教育課課長 補佐(兼)企画推進係長	NHK学園高校にか かる事業の実施、 ニーズ調査の連絡 調整等

研究等実績

本助成金で実施した研究等の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書と照らし、できるだけ具体的に記述すること。

1. 研究等の目的

交付申請書に記載した本年次の目的の概要を記載する。

本学は、「教学Vision 2027」において、「高大接続の観点から、高校教育との連携を視野に入れた教育活動」を行うことを明記し、これまでNHK 学園高等学校との連携協定締結や千葉県立長生高等学校と共同研究と通じて、高等学校段階から大学レベルの教育研究に触れる機会の提供やその効果検証等、高大連携に取り組んできた。これらの取り組みをさらに推進し、全国の高校における放送大学の利用促進及びそのための広報活動を実施することで、通学制の大学よりも地理的・時間的制約のない遠隔教育による高大接続モデルを構築する。

2. 研究等の実施状況

計画と実績の相違点などを含めて、実施状況を具体的に記述する。（助成金の利活用を含む）

①NHK 学園高等学校及び本学と協定締結中の高等学校等の生徒による本学の授業の受講

1) NHK学園高等学校（最大20名まで）【選科履修生】⇒11名

2) 本学と覚書を締結している他の高等学校 ⇒0名

3) 千葉県教育委員会（最大30名まで）【科目履修生】⇒ 1名（安房高校） 他に一名入学辞退。事前の連絡が遅れたためではないかとのこと説明あり。

② 他の高等学校におけるニーズ調査の実施

訪問の調整がいずれも不調。

③ その他

「放送大学オンライン先取り学習」を続けている長生高校では、本年度も生徒16名（1年生11名、2年生4名、3年生1名）が参加。千葉県教育委員会による同様の取り組みでは、長生高校を含め県内5校の43名の参加があったとのこと。

④ 上記①～③で得られた結果に基づき、放送大学における高大連携の具体的な制度を提示。

3. 研究等の達成状況

研究等の目的のどこまで達成したか。また、何が明らかになったのか、具体的に記述する。

① 高等学校と大学の間の連携改善に向けた社会的要請への本学としての対応の提案

1) 一連の成果を学園執行部に提供し、NHK学園高校、千葉県内の各高校からのニーズに応えることを中心に「2026 年度放送大学チャレンジ募金高大連携事業」を来年度実施するための材料としていただいた。同事業は2027年度にも継続予定。

2) 千葉県教育委員会との連携の継続。印刷教材の県内高校への整備など。

4. 今後の課題等

今後の課題と対応策等について記述する。

I. 研究等の実施によって明らかになった課題

現在の制度で対応できる「科目履修生」だけでは、ニーズの掘り起こしに課題があり、高大連携の進展に直ちに寄与することは難しい。「放送大学オンライン先取り学習」を放送大学として支援するための制度も考えてみてはどうか。

II. 課題への対応策等

放送大学と放送大学教育振興会が連携し、協定を締結した高校に対して印刷教材を割引価格で提供する制度を作ることは可能か(生徒用、教員用、図書室用)、検討したい。